

針葉樹

Okinawa pine / *Pinus luchuensis* / Ryukyu matsu / リュウキュウマツ

リュウキュウマツは琉球諸島唯一のマツ科の固有種で、日当たりのよい海岸や森の端などに自生する。成長は早く、高さ 15m 近くにもなり、幹は直径は 1メートルにもなる。樹皮は濃い灰色で、長い葉は柔らかく、毬果は卵状円筒形である。リュウキュウマツは長年建物の木材や家具、そして薪として使われている。奄美大島では、一時期（要確認）元の広葉樹林が林業のため伐採され、松が植林された。近年、北米産外来種の松くい虫により、多くの松が被害にあっているため、本来あった広葉樹林に近い自然の林が広く戻り、自然による「森林の再生」となっている。